



緑の地球新聞

第162号

2023年10月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150

砂漠化が進む地球

—現状と砂漠化防止に向けたこれまでの取り組み—

世界では1970年代から砂漠化の存在と危険性が提唱され、国際的に様々な取り組みが行われてきました。「緑の地球防衛基金」も、地球環境破壊の深刻化を憂いて、森林破壊とそれに伴う砂漠化を防ぎ地球の緑を守るために設立され、これまで40年以上の長きにわたって活動してきました。しかし、今日に至っても、森林破壊も砂漠化もそのスピードは鈍化しているものの、なお拡大傾向にあります。

本稿では、砂漠化が進む地球を取り上げ、砂漠化とは何を指すのか、その現状や原因、これまで採られてきた取り組み等を紹介します。

1. 砂漠化とは何を指すのか？

砂漠化とは、乾燥地帯において、気候変動や人間の活動により、以前は植物が育っていた緑の土地が、植物が育ちにくい土地に変わってしまうことを言います。(図1参照)

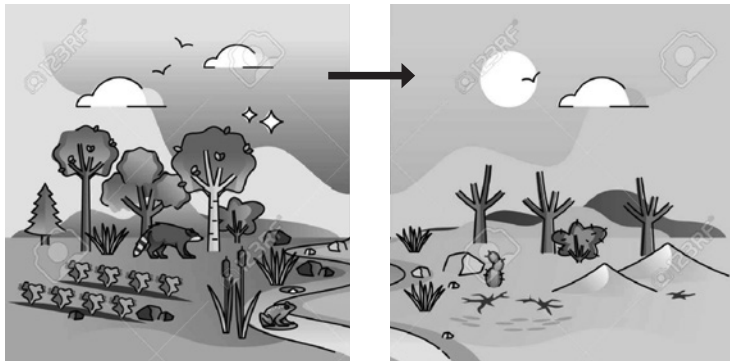
砂漠化が大変深刻な問題であるのは、砂漠化が進むと、水と食糧不足に陥るためです。砂漠化が進んだ土地では水を蓄えられず、農業が出来なくなるからです。

なお、1994年6月に採択された国連の砂漠化対処条約では、砂漠化を、「乾燥地域、半乾燥地域、乾燥半湿润地域における土地の劣化」と定義しています。

2. 砂漠化の現状

(1) 定量化が困難な砂漠化の現状

地球上でどれくらいの面積が砂



(図1) 砂漠化のイメージ図。
砂漠化とは、以前は植物が育っていた緑の土地が、植物が育ちにくい土地に変わってしまうことを言います

漠化に直面しているのでしょうか。砂漠化は大変深刻な問題であるにもかかわらず、土地の劣化を推定

する手法等によってその面積や程度の推計値は大きく異なるため、砂漠化の程度に関する確定値はありません。環境省は、「砂漠化のプロセスの多様性と複雑さにより、砂漠化の定量化が困難となっている。」と紹介しています。国連等の報告書でも、砂漠化している場所を示す世界地図が、10数年前は掲載されていましたが、近年は掲載されていません。

(2) 公表されている推計値の例

しかし、砂漠化の現状に関する推計値は様々に公表されています。

例えば、環境省自然環境局は、①砂漠化につながる乾燥地域が地球の陸地の40%以上を占めていると多くの研究で発表されていること、②今世紀末には乾燥地域が7%増えると予測されていることを公表しています。また、国連砂漠化対処条約事務局は、世界の砂漠化の現状を、次のように報告しています。

- ・ 地表の約半分(41%)を占める乾燥地に世界の3人に1人が(24億人)が住み、その半数(12億人)は世界で最も貧しい。
- ・ 私たちの食料の44%、家畜の50%を乾燥地で生産している。
- ・ 乾燥地で農業を行っている人は26億人。
- ・ 農業を行っている土地の52%は土壌劣化(砂漠化)が進行。
- ・ すでに15億人が土壌劣化(砂漠化)の悪影響を受けている。

本紙は再生紙を使用しております

・毎年、干ばつと砂漠化で、1、200万ヘクタール（日本の国土面積の約3分の1）が失われ、その結果、毎年2、000万トンの穀物が減収している。

・熱帯林と亜熱帯林の42%は乾燥した森林。世界の生物多様性の大部分は乾燥地帯の森林で維持されている。

③ 砂漠化が進みつつある地域

砂漠化の大半は開発途上国で進んでいます。中でもアフリカのサヘル地域（西アフリカのサハラ砂漠南縁部に広がる半乾燥地域）は深刻な状況にあると言われています。

中国でも、1980年代には西北部において砂漠化が深刻な状況でした。中国政府は、過伐採や過開墾、過放牧などを禁止し、植林を行うことで砂漠化の進行を阻止してきました。当基金も中国政府の要請を受け、半砂漠地において長年植林事業を実施してきました。しかし、砂漠化している土地が広大なため、今なお砂漠化の問題を抱えています。

3. 砂漠化の原因

砂漠化の原因には、「気候的要因」と「人為的要因」の2つが挙げられており、その中でも人為的要因による影響が大きいと言われています。

① 気候的要因

気候的要因とは、その名の通り、気候変化を原因とする砂漠化で

す。具体例としては、地球規模での気候変動や、干ばつ、乾燥化などが挙げられます。

② 人為的要因

人為的要因とは、人の活動を原因とする砂漠化です。乾燥地の脆弱な生態系の中で、その許容範囲を超えて行われる活動によって起こる砂漠化です。具体例として、人口増加に伴う森林の過伐採（薪などに使用）、過剰農耕（焼畑の頻発など）、家畜の過放牧（家畜が生えている植物を根こそぎ食べてしまう）、都市の拡大、鉱山開発などの持続不可能な土地管理などが挙げられます。

乾燥地というただでさえ弱い土地が、焼畑の頻発や過放牧などの人の活動によってダメージを受けて土地劣化を引き起こし、砂漠化が進行すると悪循環が起きています。

4. 砂漠化防止に向けた世界のこれまでの取り組み

1968年から1973年にアフリカのサヘル地域で大干ばつが発生し、100万人が死亡し、5,000万人が干ばつの影響を受けました。これを背景として1977年に国連砂漠化防止会議が開催され、「砂漠化防止行動計画」が採択されました。

また、砂漠化防止の知見を集め、国際的に対処するため、1994年に「砂漠化対処条約」が国連で採択されました。同条約の締約国は、

2021年現在、197か国・地域及びEUとなっており、2年ごとに国際会議が開催されています。

さらに2010年8月、「国連砂漠化対処の10年」と銘打った取り組みが行われました。世界の陸地面積の4分の1、そして100か国以上の10億人の暮らしが砂漠化によって脅かされている現状を踏まえて、2010〜2020年の10年間に、条約が定めた目標を達成しようとする取り組みでした。

こうした国際的な取り組みの中で、日本政府も、資金拠出や水資源保護、森林保全・植林、農業開発などの技術協力、砂漠化に関する研究・調査の実施などの協力を行ってきました。

しかし、2022年の砂漠化対処条約第15回締約国会合において、開催国コートジボワールのアラサン・ワトラ大統領が、「砂漠化の進



(写真1) 中国・韓城市象山における当基金の植林事業。10年間22万本余の植林により緑豊かな地に生まれ変わりました。当基金は、中国陝西省で、長年、半砂漠地での植林を実施してきました

行と干ばつにより世界中で毎年1、200万ヘクタールの土地が消滅している。土地の荒廃は貧困層の74%に直接的に影響を及ぼしている。」と発言しているように、砂漠化は今なお拡大傾向を続けています。

5. 砂漠化防止に向けた当基金のこれまでの取り組み

当基金のスローガンは「いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう」です。

当基金では、1982年の基金創設以降、中国等の半砂漠地等における植林（写真1）や、アフリカ・サヘル地域で活動するNPO団体等への資金助成（写真2）等を通じて、砂漠化防止にも積極的に取り組んできました。今後も「砂漠化」の動向を見守りつつ、活動を続けていく所存です。



(写真2) アフリカ・マリ共和国の裸地化が進む地で、草本植生の回復に取り組むNPO法人「サヘルの森」。当基金からも資金助成を実施しました

「地球にやさしいカード」2023年度助成団体紹介 尾瀬自然保護ネットワークの活動

1. 尾瀬が直面している課題

尾瀬は国内でも有数の植物相の宝庫です。標高1,400m以上の亜高山帯に位置し、植物相の多くは氷河期の生き残りで、北方系、南方系の植物も生息しています。

しかし、辛うじて生き残った尾瀬の生きものも、いま生息環境の激変に直面しています。

尾瀬が直面する課題には、①観光客による自然破壊をはじめ、②少雪化と温暖化による生態系の変容、③外来植物の繁茂、④観光客誘致日当たりの開発や施設建設などがあります。気象擾乱の影響による猛暑や豪雨、山崩れ、渇水などは日常化しており、生き物たちの生息環境の大変化は、時にその種を絶滅にまで陥れます。

「尾瀬自然保護ネットワーク」は、尾瀬国立公園において「尾瀬の自然を後世に伝える」をモットーに、長年にわたってハイカー向け啓発や調査活動を継続しています。

2. 調査研究事業

当該団体は、尾瀬の自然環境の変化や影響度合いを、さまざまな角度からモニタリングしています。



調査研究事業の一例。
標高2,000mの地点における高山植物調査の様相

モニタリングによる環境チェックは、気象変動（気温や降水、積雪など）、絶滅危惧種、野鳥、水質、高山植物、外来植物相、昭和時代の不法投棄物など、多岐にわたっています。また、環境行政に関しても定期的に調査観察を続け、データ化（記録）しています。当該団体は、自らを素人の集団であると謙遜しますが、一つ一つ各項目を研鑽しつつ観察し、データ収集を行っています。

尾瀬を取り巻く環境の変化には新たな課題も発生しています。例えば、外国人誘致のため自然林の修景伐採計画（案）、環境基準の3.5倍以上となった尾瀬沼の大腸菌群（群馬県衛生環境研究所年報より）、尾瀬の在来希少植物が外来の近縁個体群と交雑した遺伝子汚染問題（第4次尾瀬学術調査報告より）があります。また不法投棄物に被せた土砂が豪雨により流出し、大量の空き瓶、空き缶が池塘や沼にまで散乱するなど、今まで「見て見ぬふり」を続けた行政も解決できない状態に陥っています。

3. 自然環境教育事業

① 入山者に対する啓発

尾瀬内では死者数は少ないものの転倒による事故は多発し、ヘリコプターによる救助出動も珍しいことではありません。尾瀬の入山口でハイカー向けに、5月〜10月にかけて当会指導員を延べ80名ほど動員し、フィールドマナーや事故の未然防止などを、手作りの尾瀬の地図を使いながら啓発しています。また福島側では地元バス会社のご厚意により、御池〜沼山峠登山口間（約20分）のシャトルバスに添乗してハイカー向けに啓発活動を続けています。



自然環境教育事業の一例。
インタープリター養成講座の様相。尾瀬の真ん中で尾瀬を学ぶ受講者

ながら啓発しています。また福島側では地元バス会社のご厚意により、御池〜沼山峠登山口間（約20分）のシャトルバスに添乗してハイカー向けに啓発活動を続けています。

② 尾瀬自然保護インタープリター養成講座（旧指導員養成講座）

保護活動は一朝一夕にできるものではなく、後継者となる人材育成が何よりも重要と考えています。延べ130名を超える受講者は保護活動の大きな戦力となっています。

4. 普及啓発事業

自然保護の情報提供の事業として、東京ビッグサイトで開催される「エコプロ」(SDGs Week EXPO)に出店をしています。

【SDGs No.15 陸の豊かさを守る】「絶滅危惧種の保護、外来種の侵入防止、山地の生態系保全」を、手作りパンフを使いながら訴えています。絶滅危惧種の多い尾瀬からの情報発信です。

団体プロフィール 尾瀬自然保護ネットワーク

1997年3月、旧「尾瀬の自然を守る会」の有志により設立。2003年NPO法人に改組。尾瀬国立公園において、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業、自然環境教育、普及啓発活動を通じて、自然と共存できる豊かな社会の実現に寄与するため活動を行っています。

(お知らせ)「地球にやさしいカード」助成事業 第15回 研究・活動報告会の開催

10月13日(金)に標記の報告会を開催します。

様々な環境問題に取り組む助成団体のうち、本年は下記記載2団体から日頃の活動状況が報告されます。

入場無料です。急なご案内で恐縮ですが、多くの皆様に日頃の活動状況をお聴きいただければと願っています。ご応募をお待ちしています。

1. 主催 公益財団法人 緑の地球防衛基金
2. 後援 SMBCファイナンスサービス株式会社
3. 日時 2023年10月13日(金) 14:00～16:00
4. 場所 馬事畜産会館2階会議室
〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16
地下鉄東西線・日比谷線「茅場町駅」徒歩5分
JR京葉線・地下鉄日比谷線「八丁堀駅」徒歩5分
都営バス 東京駅八重洲口発深川車庫前または
東京ビッグサイト行きバス停「新川」下車徒歩2分

5. 研究・活動報告

(1)「ウミガメとその産卵地を守る」

NPO法人サンクチュアリエヌピーオー

(2)「インドネシアにおけるオランウータン保護の基盤強化に向けた植林活動」

熱帯林行動ネットワーク

参加ご希望の方は、いずれかの方法で当基金にご連絡願います。

電話(03-3297-5505)、FAX(03-3297-5507)、

Email(defense@green.email.ne.jp)。締切りは10月11日。

たくさんの使用済み切手など ありがとうございました

使用済み切手等売上表
(6月16日～9月15日)

未使用テレホンカード	2,400円
未使用/使用済み切手	342,846円
未使用/書き損じハガキ	21,420円
外国コイン&紙幣	200円
合計	366,866円

使用済み切手等協力者

(6月16日～9月15日敬称略)

市川浩一、大槻幸一郎、大山昌克、久下謙一、渋川文隆、末松大輔、菅野、鈴木敦、中野寿人、増田綾子、三浦一正、村瀬より子、森川真理子、吉水咲子 絵手紙教室、匿名

同人・団体協力者

(6月16日～9月15日敬称略)

(株)アップワード、(社)生駒市社会福祉協議会、(社)石川県社会福祉協議会、

宇佐長洲ライオンズクラブ、王子製紙新労働組合苦小牧支部、柏市国際交流協会、喜界町埋蔵文化財センター、共和食品(株)、(社)鉏路市社会福祉協議会阿寒支所、クラシテ(株)、(株)グリーンハウス、(株)さくら工業所、清水建設(株)名古屋支店、積水ハウス不動産中部(株)、高千穂ライオンズクラブ、「小さな親切」運動愛媛県本部、デジタルプロセス(株)、(株)東海維持管理工業、豊田安全衛生マネジメント(株)、(社)名古屋社会福祉協議会、(社)七尾市社会福祉協議会、ニッパツ、

寄付協力者

(6月16日～9月15日敬称略)

荒井俊行、新井信衣、(株)ECC、SMBCファイナンスサービス(株)、大槻幸一郎、黒澤一雅、ジャパン・カインドネス協会、幅田博樹、麓孝文、ボランティアベンダー協会、森口修、渡邊公伸

チャリティーコンサート での募金活動

チャリティーコンサート「AWANOGOSPELCHOIR」が9月16日(土)に東京・中野区の「なかのZEROホール」で開かれました。緑の地球防衛基金は、他の7団体とともに招かれてチャリティー活動に参加し、募金や物品販売を行いました。当基金の福田順子理事は舞台上に登壇し、多数の来場者や出演者に、「緑が大切な地球の資源であること。当基金が1982年の設立以来、地球上の緑の保全に取り組み一定の成果を挙げてきたこと。これをご縁に、緑の地球防衛軍の一員としてご協力いただければ幸いです。」などを述べるとともに、ご支援に謝意を表明しました。